

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	こぼんはうすさくら綱島教室		
○保護者評価実施期間	2025年 10月 1日		2025年 10月 31日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	107	(回答者数) 79
○従業者評価実施期間	2025年 12月 1日		2025年 12月 30日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	8	(回答者数) 8
○事業者向け自己評価表作成日	2026年 2月 7日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	資格を所有している職員が多く、より専門的に対応ができる。 また、保護者様との連携ができやすく、支援の方向性を統一できる。	子ども一人ひとりに合わせて支援ができるよう声かけや支援内容を設定している。 日々のミーティングの中で様々な目線から児童を見て支援の内容を調節している。	専門性のある内容をプログラムへ反映し、児童の支援へつなげる。 職員の上手くできた声かけ方法や支援方法を共有し、より良い支援へ繋げる。 保護者様との情報共有をより綿密に共有していく。
2	個人に合わせた個別プログラム	個別プログラムは支援目標や児童のレベルを照らし合わせてレベルを設定している。	職員や保護者様と連携して児童の課題をすり合わせを行っていく。 年長に関しては小学校や放課後等デイサービスの利用を見据えて放課後等デイサービス等と共有し設定する。
3	集団プログラム内容が充実している	毎月多くの職員にプログラム内容の候補を提出してもらい、前月と被らないように設定している。	発案したプログラムを職員間で共有し、より楽しいプログラムにできるように設定していく。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	土日や男性の職員が少なく、お出かけやトイレ介助などの対応できる範囲が狭くなってしまう事がある。	男性職員が非常勤であるためプログラムに内容によって偏りがある場合がある。	職員配置を考えて、プログラム内容を検討し、お出かけなど外でのトイレ介助に支障解消に向けて配慮する。
2	体調不良、天候不良等のイレギュラーに対する対応の難しさがある。	マニュアル化が遅れている事柄があり、現場の判断になっている。	マニュアル化をし、どの職員でも対応ができるよう周知していく。
3	教室が狭く感じる事がある。	プログラムによって人員配置に偏りがあり狭く感じる事があった。 物品が多く配置している事があった。	可能な環境設定として、使用しない物の整理整頓を行う。